



DC Promotion Association

一般社団法人確定拠出年金推進協会

投資信託は「買ったら終わり」ではない ～見直しとリバランスのすすめ～

2025/7/25 配信

DC ニュースレター

投資信託は、少額から分散投資ができ、資産形成の有力な手段として広く利用されています。近年では、企業型 DC や iDeCo などの制度を活用して投資信託を運用する人も増えてきました。

しかし、「購入したらあとはほったらかしで大丈夫」と思っていませんか？

実は、投資信託の真価が問われるのは、購入後の“運用のメンテナンス”にあります。

特に、経済環境や自分のライフステージ、市場の動きに応じて運用方針を調整しなければ、意図しないリスクを抱えたり、目標に届かない運用成果になったりする可能性もあるのです。

ここでは、投資信託の「見直し」と「リバランス」がなぜ必要なのか、そしてどのように見直せばよいのかを分かりやすく解説します。

1. 経済環境や市場の変化に対応するため

金融市場は常に変化しており、数年前に最適だったポートフォリオが、今の環境では適さないケースも珍しくありません。

たとえば、次のような環境変化が考えられます：

- 金利の変化：低金利 → 高金利では、債券の魅力が相対的に高まる
- インフレ動向：物価上昇により、実質リターンを確保する戦略が必要
- 為替の影響：海外資産に投資する場合、円安・円高の影響は無視できない

- 地政学リスク：戦争や政情不安、貿易摩擦なども価格に影響

こうした変化に気づかず、過去の環境に合わせたポートフォリオを続けていると、気づかぬうちにリスク過多になっていることもあります。

たとえば、低金利時代に人気だった REIT（不動産投資信託）も、金利上昇局面では評価が下がる傾向があります。

定期的な情報収集とポートフォリオの見直しは、こうした変化に柔軟に対応する鍵となります。

2. 資産配分（ポートフォリオ）のズレを修正する

投資信託の価格は毎日変動します。数年放っておくと、当初の資産配分が大きく崩れてしまうことがあります。

例：

当初の配分 → 株式 50%・債券 50%

3 年後 → 株式 70%・債券 30%（株式が値上がりした場合）

このように資産が一方に偏ると、リスクの偏りや過度な損失の可能性が出てきます。

これを修正するのが「リバランス」です。

リバランスは、増えた資産を一部売り、減った資産を買い増すことで元のバランスに戻す作業です。

心理的には「値上がりした資産を売る」ことに抵抗を感じるかもしれませんが、これは利益確定とリスクコントロールの両方に資する重要なステップです。

また、リバランスは「高くなった資産を売り、割安な資産を買う」行為でもあるため、長期的なリターンの安定にも貢献します。



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら
【一般社団法人確定拠出年金推進協会】
HP <https://www.member.deco-pa.com>

住所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-25-9
Daiwa 八丁堀駅前ビル西館 1F
TEL 03-6222-9161
MAIL 401k@member.deco-pa.com



3. ライフステージに合わせた調整を

資産運用の目的は、人生の各ステージで必要となる資金を準備することです。つまり、「いつ」「いくら」「何のために」お金が必要なのかを明確にし、それに合わせた運用方針が求められます。

【例】

- 20～40代：収入が増える時期 → リスクを取って資産を成長させる戦略が有効
- 50代以降：教育費や老後資金が視野に → 安定性重視ヘシフト
- 定年退職前後：元本の安全性が最重要 → 債券や定期預金の比率を増やす

たとえば、60代になっても株式中心のポートフォリオを維持していると、市場の急落で老後資金に大きな影響が出るリスクがあります。

そのため、定期的にライフプランを見直しながら、運用方針を調整していくことが大切です。

4. 市場のトレンドや突発的な出来事への対応

世界の市場は、突発的な出来事によって大きく揺れ動くことがあります。

代表的な事例：

- 2008年 リーマンショック：金融機関の破綻により世界中の株式市場が暴落
- 2020年 コロナショック：世界的パンデミックによる経済停滞と株価急落

こうした局面では、短期間で資産価値が大きく変動することもあります。

事前に守りの姿勢をとるか、変化を見て迅速にポートフォリオを調整できるかが重要です。

また、こうしたショック後は、資産配分が大きく偏る可能性があるため、リバランスのタイミングとしては絶好の機会でもあります。

5. どのくらいの頻度で見直すべきか？

見直しの頻度に“正解”はありませんが、以下がひとつの目安です：

- 年に1～2回（年末や年度末）
- 大きなライフイベントの前後（転職、住宅購入、子どもの進学、退職など）
- 市場が大きく動いたとき（株価の大幅変動、金利の急上昇など）

特に、企業型DCやiDeCoのように運用が長期にわたる制度では、「放置しないこと」が成功のカギになります。定期的な棚卸しを習慣化することで、長期的な目標達成に近づくことができます。

運用は“買った後”が勝負です。

投資信託は「購入して終わり」ではありません。むしろ、購入後の育て方こそが運用成果を左右する最大の要因です。

- 経済環境の変化に気づく
- ポートフォリオの偏りを修正する
- ライフステージに合った運用を意識する
- 市場の異変に備える
- 定期的に確認する習慣を持つ

これらを意識しながら、“自分に合った運用”を定期的に見直すことが、着実な資産形成への最短ルートです。この機会に、ぜひ一度ご自身のポートフォリオを見直してみてください。

最後に、具体的な行動について説明します。

まず、ご自身の資産配分が現在どのようになっているのかを加入者サイトで確認してください。一人一人にID・PWが付与されています。加入時に記録管理機関（SBIベネフィット・システムズ又は日本インベスターソリューション&テクノロジー）からご自宅宛てに送付されています。ID・PWがわからない方は、再発行できますのでそれぞれのコールセンターに依頼してください。

次に、専門家にいつでも相談できるメールボックスがあります。自分の場合は、どんな資産配分をしたらよいのか専門家に聞くことができます。一度、利用してみてください。

メールアドレス：401k@member.deco-pa.com

左下のQRコードからもご相談が可能です。



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら
【一般社団法人確定拠出年金推進協会】
HP <https://www.member.deco-pa.com>

住所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-25-9
Daiwa 八丁堀駅前ビル西館 1F
TEL 03-6222-9161
MAIL 401k@member.deco-pa.com

